

# 「あるべき理想の現場」をつくる。 100年変わらない、 コマツの仕事である。

代表取締役社長(兼)CEO 小川啓之



## それは 創業者の思想から 始まった

「鉱山は掘り尽くせばなくなる。  
工業技術は、訓練するほど新たな産業を生み出す力がある」

石川県小松市の遊泉寺銅山跡。コマツは、銅山会社の一部門として、鉱山機械を手がけるところから始まった。創業・竹内明太郎は、こう語っている。鉱山は掘りつくせばなくなる。廃鉱になったら地域はどうなる。彼は、欧州で視察した高い技術が将来の礎になると確信。1921年、「技術を通じ、社会とともに発展する」という理念のもと、「小松製作所」が誕生した。

## 創業者の志は、 今、 世界の現場へ

北陸の小さな会社は、やがてグローバルに

国産初のブルドーザーをはじめ、コマツは他社の追随を許さない「ダントツ」の製品を開発していく。同時に、技術を担う人材の育成や、本業を通じて地域課題に貢献する活動も推進。海外展開を進める中でも各地で変わらないスタイルを貫いてきた。

2010年、コマツは「事業活動=企業の社会的責任(CSR)の活動」と位置付けると発信。明太郎の思想は、「生活を豊かにする」「人を育てる」「社会とともに発展する」という3つのCSR重点分野へと受け継がれた。

## 新たな目標 SDGsの達成に 向かって

議論を重ねた。  
コマツの事業は、SDGsの5つのゴールへと続く

3つのCSR重点分野は、さらに国連が掲げる「持続可能な開発目標」(SDGs)に結びつく。議論を重ね、SDGsの17のゴールとコマツのCSR活動との関連性を一つ一つ判定。「産業技術革新」「持続可能都市」「気候変動」「協業」「経済発展」の5つを注力するゴールとして選び、達成に向けて取り組みを強化している。

## あるべき 現場の姿を 実現するために

世界中の現場を、「あるべき理想の現場」へ

環境負荷への懸念。深刻な人手不足。コマツが事業を営む地域社会は、様々な課題に直面している。企業への投資でも「環境・社会・ガバナンス(ESG)」の視点が重要になる時代だ。だからこそ、コマツは「あるべき姿」に向かって歩みを止めない。

データ活用で現場を効率化する「スマートコンストラクション」や、無人ダンプトラック運行システムなどで「安全で生産性の高いスマートでクリーンな未来の現場」をつくること。世界の現場で人を育てること。地域社会とともに発展すること。創業時から変わらぬ思想で、コマツは、次の100年も現場を変えていこうとしている。

創業  
竹内明太郎  
の思想



コマツの  
CSR重点分野



本業を通じた  
ESG課題解決

- 気候変動に対応した環境負荷低減や安全に配慮した高品質・高効率な商品・サービス・ソリューションの提供
- 多様な人材の育成  
ダイバーシティ・グローバル人材の強化と育成
- ステークホルダーとの協業による社会的課題の解決  
責任ある企業行動

CSR  
重点分野と  
SDGsとの  
関係



コマツの  
目指すべき姿



つくろう、サステナブルな社会を。  
つくろう、コマツらしいやり方で。

KOMATSU



100<sup>th</sup>  
Anniversary